

栄養ケア・マネジメント課程カリキュラム

1 栄養ケア・マネジメント課程について

栄養ケア・マネジメントは日本健康・栄養システム学会が提唱しこの学会が研修会を行い人材の育成をしました。また、公益社団法人日本栄養士会でも、令和5年度から実務遂行能力向上のため、生涯教育研修に栄養ケア・マネジメントを追加しましたが、当センターでは平成15年度の開設当初から学会公認のもとで、栄養ケア・マネジメント研修を行ってきました。

平成17年10月には介護保険制度の中に、また、平成18年4月には診療報酬が改正され栄養ケア・マネジメントが制度として導入され、社会的にも管理栄養士に大きな期待と責任が生じ、報酬の改定のたびにさらに管理栄養士の役割が増えている状況から、平成19年には、「栄養ケア・マネジメント課程」として保健福祉大学栄養学科との共同企画で開講し、内容の充実を図りました。

今も、高齢者の低栄養リスク改善や地域連携、早期からの栄養介入など、多くの場面で管理栄養士への期待が高まっています。

栄養ケア・マネジメント課程では、管理栄養士業務をシステムとして捉え、業務と栄養介入の質向上に関する知識・技術を実践的に学び、様々な課題に対応するカリキュラムを提供しています。

2 課程の特徴

人間栄養学に基づき、臨床栄養活動や在宅療養者への栄養ケア活動において求められる栄養の知識・技術およびマネジメント能力を習得し、栄養ケア・マネジメントにおいてリーダーシップを発揮できるエキスパートを育成する課程です。一流の講師陣の講義に加え、グループワーク、直接患者に接する体験や、最新の機器を用いた実習など、多彩で実践的なカリキュラムを提供しています。

また、保健福祉大学大学院との共講により大学院レベルの教育機会を提供するとともに、認定看護管理者教育課程ファーストレベルとの共講などを通して、多職種の相互理解を深め、連携・協働についての視野を広げることで、実践力を養うことができます。

3 開講期間と日程

開講期間は4月から3月までの1年間、働きながら学びやすい土曜日に開講（選択科目に一部平日あり）しており、年間開講回数は令和5年度で38回でした。

4 2年履修制度

カリキュラムの大幅改定を計画しているため、令和6年度は2年履修を選択できません。

5 カリキュラムの概要

【教育目的】

ヒューマンサービスにおける人間栄養学に基づいた栄養の知識・技術およびマネジメント能力を習得し、栄養ケア・マネジメントの質の向上に貢献できる人材を育成する。

【教育目標】

- 1 ヒューマンサービスの一環としての栄養ケア・マネジメントを担う理念・使命感を備える。
- 2 専門職としてのチームでの役割を理解し、チームメンバーとして連携のとれた業務活動ができる。
- 3 栄養ケア・マネジメントの業務活動上の問題を明確にして、科学的根拠やマネジメント手法などを活用して解決策を提示できる。
- 4 リーダーとなれるマネジメント能力を備える。

【教育内容】

(多少変更することがあります)

分野	科目名 (必修・選択の別)	時間	内 容	ねらい
基礎	ヒューマンサービス論 (必修)	15	ヒューマンサービスの理念 保健・医療・福祉の連携 倫理とチーム活動 人間栄養学 人間関係論 多職種協働	管理栄養士として、様々な職種と連携・協働しながら、チームケアを進めていくうえで基本となる考え方や、人間関係の構築について学ぶ。
	栄養ケア・マネジメント論 (必修)	30	科学的根拠に基づいた栄養ケア・マネジメント 高齢者の栄養ケア・マネジメントの特徴 栄養ケア・マネジメントの運営 在宅栄養ケア・マネジメントの運営 給食経営管理 経営の基礎 人材教育と自己研鑽・生涯学習 栄養政策と栄養士活動	栄養ケア・マネジメントの概念、計画、評価、品質改善活動など、栄養ケア・マネジメントの運営のための基礎と実務について、制度、管理、情報などから多面的に学習する。
	設定時間数 小計		45 (必修 45)	

分野	科目名 (必修・選択の別)	時間	内容	ねらい
専 門	臨床栄養実践活動論 (必修)	30	栄養アセスメント・栄養ケア計画 経腸・静脈栄養法 摂食・嚥下機能と経口摂取・維持 特定保健用食品・保健機能食品・病者用食品 急性期・重症疾患の栄養管理 糖尿病の病態と栄養管理 臨床栄養における検査所見 栄養評価	臨床での栄養管理に必須となる栄養アセスメント、経腸・静脈栄養や摂食・嚥下機能や機能性食品等の適切な選択についての理解を深め、事例検討を交えて学習する。
	栄養教育と地域活動 (必修)	30	栄養教育 退院計画・指導 集団の栄養評価と計画 地域栄養活動	生活習慣病、低栄養状態の重症化予防・治療のための栄養教育、地域栄養活動の基本と業務の進め方を、具体的な集団の評価や地域連携など、地域活動の実践に結び付けられるよう理解を深める学習をする。
	事例検討 (必修)	15	事例検討の意義と方法 ヒューマンサービスの質を高める事例検討	栄養ケア・マネジメントの基礎的事項を学んだうえで、具体的な事例発表を通じて、発表方法や技術について理解を深め、現場での対応力の向上を図る。
	栄養ケア・マネジメント (NCM) の展開 1 (品質改善活動) (必修)	60	情報の活用 文献検索 文献の活用 NCMの問題抽出と目標設定 NCMの計画作成と実行 評価計画に基づく評価と修正 発表	自施設における業務上の問題を抽出し、改善目標を設定して、PDCAサイクルに基づく継続的品質改善活動を展開できるよう実習を通して学習する。
	栄養ケア・マネジメント (NCM) の展開 2 (居宅サービス活動) (選択)	60	居宅サービス活動講義 居宅サービス活動演習 居宅サービス活動実践 通所サービス 実践病態栄養学 コーチング 実習のまとめ	居宅での栄養ケア・マネジメントを自ら行えるよう、対人サービスの基本を学んだうえで、実際に居宅サービス活動を行っている講師の講義に加え、演習や実習を通して学習する。
	クリニカルニュートリション (選択)	15	臨床栄養におけるフィジカルアセスメント 臨床栄養に必要な薬理学の知識 臨床栄養における周術期の知識 水・電解質と脱水症	全身管理における栄養管理の位置づけを理解し、臨床現場において、他職種と協働した効果的なNST活動や全人的な栄養管理を行う知識・手法を身につける。
設定時間数	小計	210	(必修 135 / 選択 75)	
設定時間数	合計	255	(必修 180 / 選択 75)	